様式３

会　　議　　録

□全部記録　　■要点記録

１　会　議　名	令和３年度　第２回 姫路市総合教育会議
２　開催日時	令和３年８月 11 日（水）13 時 30 分～14 時 37 分
３　開催場所	姫路市役所　10 階　第２会議室

４　出席者又は欠席者名

〔構成員〕

清元市長、西田教育長、山下教育長職務代理者、松本教育委員、森下教育委員、

角谷教育委員

〔関係者〕

和田副市長、段政策局高等教育・地方創生担当理事、峯野教育次長

〔事務局〕

高等教育室　：高橋室長、篠原係長、定主事

教育委員会事務局：平田教育総務部長、竹田教育企画室長、殿垣総務課長、宮﨑教育企画室主幹、

簑島総務課長補佐、鈴木教育企画室課長補佐、巽管理指導主事

５　傍聴の可否及び傍聴人数　　傍聴人　１名

６　議題又は案件及び結論等

姫路市立高等学校の在り方検討について

７　会議の全部内容又は進行記録

詳細については別紙参照

・　令和 12 年の生徒数が現在と比べて約 1 割減少する見込みであるということについては、市立３校だけで考えると 40 人学級を 35 人学級としてより密度の濃い教育をするという考え方もある。ただ、10 年後よりさらに先の状況を見据えると、第４学区全体で統廃合を考えなければならない。

・　市立３校の特化コースの生徒の進路（学部・就職先・その分野での定着率など）を追跡アンケート調査等で分析し、各コースの効果を見極めることは重要である。飾磨高校の健康福祉コースは超高齢化社会の時代において大変重要な分野である。

・　工業高校等におけるＩＣＴ教育はもちろん重要であるが、国際文化、健康福祉、探究科学等の各分野でＩＣＴを活用するための教育も重要になってくる。

・　県立高校の中には県が望ましい規模として示す「６～８学級」の基準を満たしていないところも多い。小規模な高校では教員が免許外の科目も担当することになるほか、部活動も制限されてしまう。

・　県立・市立にかかわらず、それぞれの高校が適正規模を維持できるよう、県市でしっかりと連携して第４学区全体で統廃合を検討する必要がある。

・　飾磨高校の健康福祉コースの志願倍率が令和２年度は 1.6 倍であったが、令和３年度は 0.8 倍と半減している。今後、さらに多くの人材が必要な分野であり、このようなコースを増やすべきであると思う。
⇒（事務局）福祉施設で新型コロナウィルスのクラスターが発生するなど、現場は大変な状況であり、敬遠されたのではないかと分析している。

・　横浜市には多くの市立高校があり、その中の単位制高校では１人ひとりの興味・進路に応じた科目を自由に選択して学ぶことができる。また神奈川県では県立高校間の単位互換制度がある。本市の市立３校も、生徒同士の人的交流など、様々な工夫を考えていくことが必要である。

・　資料１から、市立３校の需要は高く、県立高校の一部では定員割れしているということがわかる。高校生は遠方からでも通学できるので、生徒・保護者の視点で考えると、需要が減っているところから統廃合を検討するべきである。市立のまま維持するかどうかは別の問題であり、市立を県立に変更するということも選択肢の１つではないか。

・　市立３校とも伝統があり、それぞれの校風・特色がある。保育士の人材不足は本市においても大きな問題であるが、市立高校において保育士による出前講座や職業体験を実施している。財政面は県と協力し合い、市立高校の在り方については、県立高校を含めた全体のバランスをとりながら、生徒への教育という観点を第一として検討していくべきである。

・　地域に必要な人材を地域で育てるという地域定着のキャリア教育を、高校には期待している。単に１つに集約すればいいという問題ではないので、地域の人材育成ということも市立高等学校の在り方審議会では審議していただきたい。

・　３校とも老朽化が進んでおり、今後、３校すべての整備に何百億円を投入していいのかという議論も避けては通れない。

・　専科であれば兵庫県全域から生徒を集めることができるということであるが、例えば健康福祉

コースを健康福祉科として２クラスに増やし、健康福祉の人材育成は姫路市が担うということで、全県から生徒を受け入れ、県から財政的支援を受けることも考えられる。

・　兵庫県の人口減少は、農村部から県内の都市部の高校や大学に進学し、その後東京で就職してしまうというケースが多いと分析されている。地域に魅力ある教育があり、この地域に住んで働きたいと思えるような特色ある教育を実施することは、東京一極集中を防ぐためにも非常に重要である。

・　ある看護学校では、地元出身者の方が卒業後も地元に残る可能性が高いので、入学試験の点数が同点の場合は、地元の人を優先することがあると聞く。全県から生徒を集めても卒業後に故郷に帰ってしまうリスクがあるので、それぞれの地域で人材育成をするという考え方である。

・　アメリカの州立大学などは、地元出身の生徒の授業料は最も安く、隣の州の出身者はそれよりも高く、海外からの留学生は最も高額という、３段階の授業料が設定されている。姫路市での定住を促進するような奨学金に関する制度の充実も考えていきたい。